

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた
中学校数学の指導方法等の改善計画

別紙Ⅰ
【東広島市立もみじ中学校】

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果 (平均正答率 %)

自校(52) 広島県(52) 全国(52.5)

I 正答率の低い問題(下位3問)

問題番号1 正答率 0.0%

n を整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す。

問題番号8(2) 正答率0.0%

18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を式やグラフを用いて説明する。

問題番号9(1) 正答率0.0%

点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同をもとにして証明する。

II 考えられる主な原因

- ① 文字を用いて数を表したり、それらを使ったりすることについて定着していない。
- ② 事象を数学的に解釈し、式やグラフを用いてそれらを説明することに慣れていない。
- ③ 筋道を立てて考え、証明することができない。

III 解決に向けた授業改善等の取組

- ・式の計算、方程式、関数などあらゆる場面で文字を使う際に、基本的な内容の確認ができるような練習問題を行い、文字の使用についての苦手意識が克服できるように勧める。
- ・関数の学習の導入などにおいて、事象を数学的にとらえ、式やグラフを用いて考える場面を増やしていく。
- ・証明の学習を、個別最適な支援を行うことによって「できる」という意識を持てるように進める。

IV 今年度の目標

	3年生
検証問題の目標(正答率) 令和7年2月実施	25%